

## (提案型協働事業 検証シート)

協働事業の概要	事業名称	熱と光の人権文化創造事業		
	団体名	あまがさき人権まつり12実行委員会	市所管課	人権課
	事業の趣旨・内容	尼崎市及び市民はそれぞれ独自に人権文化の実現を目指し取組を進めているが、行政は啓発事業の広がり、市民側は経費や人材、広報で課題を抱えている。そこで、市と市民が協働により市民の人権にかける熱い想いを光のイベントとして実施する。		
	協働における行政の役割	市報掲載、マスコミへの情報提供、関係機関のコーディネート 等		
協働における市民の役割	ポスター・チラシ・パンフレット作成、イベント企画運営 等			

### 市民と行政のこれまでの動き

年月	できごと
平成24年 5月	・補助金交付決定・協定書締結
6月	・熱と光の人権文化創造事業協議会の開催(~11月 計8回)
11月	・あまがさき人権まつり12 実施
平成25年 3月	終了(平成25年度はあまがさきチャレンジまちづくり事業として採択)

評価会議における意見など

1	<p>まつりという形式について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ただ楽しみに来た人へ人権文化がどのように伝わったのかなどの成果の検証が必要である。</li> <li>・本来の人権文化のあり方を考え、まつりという場ではなく、身近な生活で人権を考えていく手法が大事ではないか。</li> <li>・楽しむのはいいが、人権啓発にはつながらないと思われる。しかし、どのような手法がよいか難しい問題である。</li> </ul>
2	<p>これまで団体独自の事業として実施していたが、平成24年度は市民提案型協働事業として実施し、平成25年度は協働を解消し別の補助制度を活用している点について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・団体が市にどのような役割を担ってほしいかきちんと伝えていない。市がパートナーになるからには、これまでの事業と内容を変えていかないと市も関わりにくいのではないか。</li> <li>・長年団体が独自で行ってきたことが逆に足かせとなり、市はゆるキャラを集めることぐらいしかできていない。</li> </ul>

所管課意見

評価会議からの提案事項	意見
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人権啓発の取組みの成果の検証は、目標数値をどう定めるかや目に見える効果がすぐに表れないなどの問題があり、特に人権まつりのように年齢・性別や意識・考え方などが異なる不特定多数の市民を対象に単発で開催するイベントにおいては非常に難しい。そうした中、平成25年度の実施の際には参加者から新たにアンケートを取るなど団体においては努力が見られる。</li> <li>・人権啓発の取組みにあたっては、画一的な手法ではなく、講演会、講座、ワークショップなど、対象や内容に応じて最も効果的な手法を用いることが必要である。人権まつりのような、不特定多数の幅広い市民が気軽に参加できるまつりという形式については、人権問題に無関心で講座等には参加しないような市民が人権問題を考えるきっかけ、気づきとなるものであり、必要な手法の一つであると考え。</li> <li>・今後は、人権まつりに参加した人たちが、それだけで終わるのではなく、人権問題を自分自身の課題として受け止め、身近な人権課題の解決に向けて行動していけるよう、人権まつりの内容の検討や他の人権関連の取組みとの連携などについて団体と協議する場を引き続き持っていきたいと考えている。</li> </ul>

市 総括

<p>本取組においては、団体による既存事業に市が加わって一部の役割を果たすというスタイルで協働を行った。人権文化の向上にどれだけ貢献できたかという点を検証することは難しいが、解決すべき課題に向けて協議を重ねて事業展開した結果、来場者を増やすという成果につながった。市内で様々なイベントが開催される中で、本取組においては、予算規模が大きいものの団体が自ら協賛金等を募り、会議を重ねて実施している点について所管課は高く評価しており、共に人権文化の向上を目指して協働を継続していきたいと希望している。今後は、内容の検討や他の人権関連の取組みとの連携などについて団体と協議を予定しており、更なる事業の発展が期待される。</p>
---

以上